

後期に向けての学校改善

1. 学校運営・学校経営にかかわって

【現状と分析】

教職員の自己評価において、「適切な校務分掌と意欲的な学校運営への参画」が（4.0）という極めて高い数値を示しており、組織としての機能が非常に良好であることが伺える。また、教職員間の「報告・連絡・相談」も（3.9）と高く、互いの壁をなくした児童理解や情報共有がなされている。

保護者からも、学校の施設・設備（3.8）や安全確保・事故防止への取り組み（3.8）について非常に高い信頼を得ている。

【今後の展望と目標】

持続可能な勤務体制の確立として、働き方改革において、土日や帰宅後のリモートワークが発生している実態があるため、後期は仕事の優先順位をさらに明確化し、組織的な業務分担を進めることで、教職員の心身の健康と教育の質を両立させたい。

「安心・安全」の再定義として、過保護になりすぎず、子どもたちの自立を促すための安全指導のあり方について、保護者と認識を共有し、学校・家庭の双方が納得できるバランスを模索していきたい。

2. 学習指導にかかわって

【現状と分析】

学校の学習指導に対する信頼は厚く、保護者評価で「基礎的な学力が身につく指導」は3.8と高い評価を維持している。また、児童も「授業が楽しい（3.6）」「授業がわかる（3.4）」と前向きに捉えており、特に宿題の提出状況（3.5）は昨年度（3.2）から大幅に改善している。

教職員側でも、主体的学びを促す「めあての提示と振り返り」や「道徳教育」の評価が昨年度より大きく向上している。しかし、今後は「家庭学習」と「読書」について意識を高めていくことが求められる。

【今後の展望と目標】

自学自習の習慣化と質の向上として、宿題をこなす段階から一歩進み、自ら進んで学習する習慣の定着を目指したい。個々の家庭状況や習い事に応じた柔軟な課題提示を検討していきたい。

読書活動の推進として、学校図書館の活用促進や、家庭と連携した読書環境の整備に取り組みたい。学校の読書週間を今後も有効利用し、意識向上に努めたい。

また、デジタルデバイスとの付き合い方として、低中学年でもスマホ・携帯の所持が増えているため、家庭でのルール作りを啓発し、学習への集中力を維持する環境を整えたい。

3. 生徒指導にかかわって

【現状と分析】

教職員による「児童一人ひとりとのコミュニケーション（3.9）」や「心の居場所づくり（3.9）」は昨年度（3.5）から大幅に改善され、本校の大きな強みとなっている。児童アンケートでも、先生が声をかけ

てくれることへの評価（3.7）が非常に高く、良好な教師と児童の関係が築かれている。また「仲良く遊ぶ友達（3.6）」についても、高い評価となっており、よりよい友達同士の関係ができています。

【今後の展望と目標】

共感的・深化的な人間関係の構築として、学級経営や小中合同活動を通じた集団づくりを支援していきたい。特にコミュニケーションを多く取り入れた活動を充実させ、より一層の人間関係向上を図りたい。

基本的な生活リズムの向上として「早寝早起き・朝ごはん」という基本的生活習慣に向けて家庭との連携を強化し、児童が自らの健康を意識できるような指導を継続していきたい。

継続的ないじめ等の早期発見・早期対応として、現在の良い関係を基盤に、後期も児童の小さな変化を見逃さない観察眼を持ち続け、いじめや不登校の未然防止に組織的に取り組んでいきたい。

4. 保護者・地域との連携にかかわって

【現状と分析】

HP の更新や学校だよりの発行を通じた情報公開（3.7）は肯定的に受け止められている。また、小中合同活動や自然体験などの特色ある取組（3.7）も高く評価されており、芦安小学校ならではの教育ブランドが定着している。

【今後の展望と目標】

ニーズに即した情報発信として、情報の頻度だけでなく、保護者が真に必要な内容を丁寧かつタイムリーに発信する体制を整えたい。

PTA 活動が保護者にとって参加しやすいように活動内容の丁寧な説明やより効果的に実施できるよう見直しを検討し、学校と保護者が協力し合える持続可能な形を模索していきたい。

双方向コミュニケーションの強化として、地域行事等が増える後期に向け、一方的な情報提供だけでなく、保護者や地域の願いをより積極的に吸い上げ、教育活動に反映させる「開かれた学校」をさらに進化させていきたい。

5. 特色ある学校づくりにかかわって

【現状と分析】

本校の特色でもある自然体験学習は、教育課程の大きな柱となっている。その中で本校の実情や児童の実態に合った、効果的な自然体験学習の場を保障することができている。

【今後の展望と目標】

地域人材（地域の宝）を有効に活用し、児童が郷土の歴史や自然、文化関心をもつことができるような機会をできるかぎりつくっていく。